有縁の皆さんでお読み下さい

お浄土とは 大切なあの人と再会するための生きる力です

お念仏の 家族に なろう

毎月 25 日発行　しょう　しき　しょう　こう
お寺のかわら版
じゅんしょうじほう
純正寺報 青色青光 No.318

発行責任者：浄土真宗本願寺派　護法山 純正寺 住職　釋 覚恵（漢見覚恵）
〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29　TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829
メールアドレス :purity-temple.since1499@nifty.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

純正寺が主催し、彦根組が後援する充実門徒講座。

「てられんけん」

純正寺にて好評開催中 !!

第3回 11 月 27 日（日）午後２時から 午後５時まで

お勤め『重誓偈』
研修①「人生と宗教（私の歩む道）
研修②「お仏壇とお荘厳」
研修③「葬儀や法事は何のためにするのですか。しなければなりませんか」

※「てられんけん」に関心がある方は、純正寺住職まで連絡を。

YouTube 純正寺チャンネル　LINE 純正寺公式アカウント

QR コードリーダーで読み込んでください。

11 月 25 日（金）
10：00~12：00 13：30~15：30
こんき常例布教
法話：明法寺　青峰 真雄 師

純正寺の法要は「YouTube」「LINE LIVE」で、生配信でも録画でもご視聴・お聴聞していただけます。

住職法話 我聞如是（われかくのごとくきく）

お浄土をいのちの行方と頂く

～大切なあの人と再会する日のために～

生き抜く力

浄土真宗という言葉、それは親鸞聖人の「生きざま」を表現された言葉だと私は頂いています。もし、親鸞聖人に「親鸞様にとって限りあるいのちを生きるとはどういうことですか？」とお尋ねしたら「それは、阿弥陀如来のさとりの世界であるお浄土を、この限りあるいのちの真の行方といただいで、お念仏と共にお浄土に向かって生きるということです」とお答えになると頂いているのです。

この、お浄土に向かって生きるということを、親鸞聖人はご門弟に宛てたお手紙の中で「私は、今はもうすっかり年老いてしまい、きっとあなたより先にお浄土に往生するでしょうから、お浄土で必ずあなたをお待ちしております」とおっしゃいました。尊敬する親鸞聖人からこのお手紙をいただかれたご門弟は、どれだけ嬉しかったことでしょう。親鸞聖人が待っていてくださるお浄土を、私もいのちの行方といただいて生きることができる。そして、親鸞聖人と再会する時を楽しみに、どんな困難の中にあっても、きっと生き抜く力をいただかれたに違いありません。

「がんばりやあ」

坊守の母が往生して、早くも半年が経過しました。お念仏と共に、癌をご縁に八十一歳の生涯を生ききった母でした。そして、今も残された私たちに死別の悲しみを通じて大切なことを伝え続けていてくれる母です。母の往生を誰よりも悲しんだのは孫息子、そう私の息子でした。癌が再発した頃から、おばあちゃんの厳しい状況を私たちと共に共有していた息子でしたが、大のおばあちゃん子である彼は現状を中々受け入れることができず「おばあちゃんが亡くなるところを見るくらいなら、僕が先に死にたい」と口にすることもありました。

それでも、おばあちゃんが自力でお風呂に入れなくなると「僕がおばあちゃんをお風呂に入れる」と言って、週に何度も車でおばあちゃんの所へ出かけて行きました。往生の二日前、意識を失う直前のおばあちゃんに会いに行った息子に、母は「がんばりやあ」と言い残して意識を失いました。

しかし、往生の日。どうしても大学に登校しなくてはならなかった息子は、おばあちゃんの臨終を看取ることができませんでした。

死別の悲しみ

その後悔もあって、息子は死別の悲しみに心を病んでしまいました。しかし、お葬式からわずか一週間後、彼は目指している作業療法

士（いわゆるリハビリの先生）になるために必要な、病院実習に行かなければなりませんでした。実習初日、彼は私に「お父さん、僕あかんかもしれへん」と言って実習先の病院へと出かけて行きました。その言葉に私も不安でいる中、案の定お昼過ぎに彼は「やっぱりあかんかった」と帰宅したのです。「どうしたん？」と尋ねると、「入院されている年配の女性患者さんが、みんなおばあちゃんに見えてしまうんや。その患者さんに、療法士さんが『お孫さんがお家で待ってはるのやろ。はよ元気になって退院せんとな』と言わはったの聞いたら涙が出てきてしもうて。そうしたら、その患者さんから『がんばりやあ』と声をかけられて。それでもう、泣き崩れてしもうたんや」と彼は話してくれました。

その結果、病院実習は中止となり、感情のコントロールができなくなって「僕はおばあちゃんのお世話がしたくて作業療法士になろうと思ったんや。だから、もう作業療法士になる理由はなくなった」と言うようになってしまった彼は、心療内科で「うつ病」と診断されて、一ヶ月あまり自宅療養を余儀なくされたのでした。しかし、この実習を終了しなければ、資格を取得することも大学を卒業することもできません。学校側の配慮で、自宅療養明けから息子は、障害児施設での実習に再挑戦することになりました。

再び会う日のために

実習終了まであとわずかというある日、その日の実習を終えて帰宅した彼が、私に話してくれました。「今日、施設に通ってくる子どもさんの保護者さんに『何で作業療法士になろうと思ったの？』って尋ねられた。だから、僕言うたんや。『僕は祖母のお世話がしたくて作業療法士になろうと思ったんだけど、祖母が亡くなってしまったので、なる理由がなくなったんです。』って。そうしたら『じゃあ、何で今実習に来てるの？』って尋ねられたから『今度祖母に会った時に、笑顔で作業療法士になったでっていいたいから』って答えたんや」って。

私は、息子の言葉に驚きました。息子に尋ねてくださった方には、息子の答えの意味は理解していただけなかったかもしれないけれど、息子は「お浄土で待っていてくれるおばあちゃんに、今度僕が生まれて再会した時に、恥ずかしい自分ではいられない」と言ったのです。息子は、祖母がお浄土に往生したのだと、自分もお浄土に往生するいのちを生きているのだと、全く疑っていないようでした。

お浄土に往生された方々は南無阿弥陀仏となって、このように残していった人たちをお浄土に向かって生きるいのちに育ててくださるのですね。南無阿弥陀仏には、何とも不可思議なはたらきがあるのですね。

純正寺11月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

8日(火)・22日(火)
10:20~11:30
年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

みんなの食堂ビハーラ

10日(木)・24日(木)
17:00~19:00
年齢・性別は問いません

コロナ感染症の第7波も収まりつつありますので、定員を少し増やして楽しくお食事します。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

12日(土)・26日(土)
16:00~18:00
就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しいおやつタイムです。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

13日(日)
18:00~20:00
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

「月例法話座談会」

15日(火)
14:00~16:00
年齢・性別は問いません

日常の「何故?」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

20日(日)・23日(祝)
16:00~18:00
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。手洗い・マスクを忘れずに。

こんき常例布教

25日(金)
10:00~11:30.13:30~15:00
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法友ができる法座です。ご法話は、東近江市明法寺の青峰真雄師です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:45
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。LINELIVE で生配信もします。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません

生きることが辛くなる前に、早めに気軽にご相談下さい。
相談予約専用電話番号は
090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは
namo-yorozu@docomo.ne.jp

お詫びと訂正

先月号の「住職法話」の中で、帰敬式を受式された橋本尚子さんのお名前が、一箇所「直子」になっておりました。大変失礼いたしました。お詫びと訂正をさせていただきます。

報恩講賑やかに

三年ぶりに、参拝者人数制限なしで開催されました今年の報恩講。門徒会の新しい役員さん達の手際の良い準備と進行のもと、沢山の真宗門徒の皆さんがお聴聞を楽しみにお参り下さいました。

初日の午後六時からは「子ども報恩講」。約三十名の参拝者と共に、お勤めとお話とビンゴゲームを楽しみました。

今月のエコキャップ

一、五一二、九四一個

厳しい残暑から、足早に晩秋の寒さに季節が変化する中、五二〇三個のキャップが集まりました。ありがとうございます。